

⑤プラグ

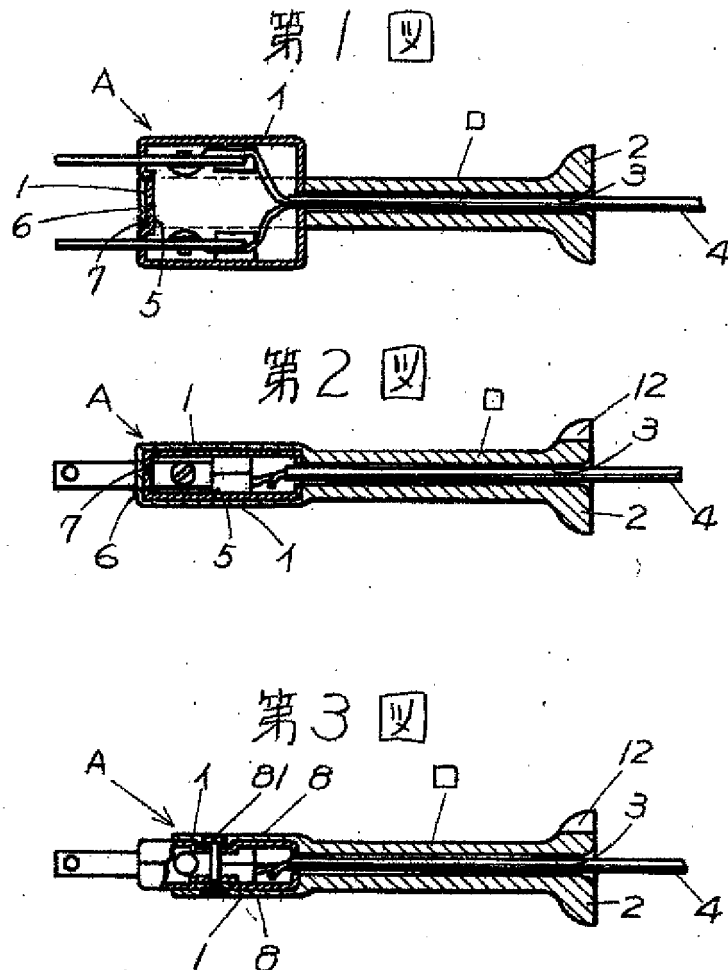
①実 願 昭46-95794
②出 願 昭46(1971)10月15日
③考 案 者 出願人と同じ
④出 願 人 沢村実
京都市東山区山科日の岡鴨土町
2
⑥代 理 人 弁理士 丸山喜三造 外2名

⑦実用新案登録請求の範囲

後部へ所定長の可撓性握り部を連設し、該握り部後端には指掛りを突設したプラグ。

図面の簡単な説明

第1図は第1実施例の中央縦断面図、第2図は第1図の中央横断面図、第3図乃至第6図は他の実施例の一部を切欠せる正面図である。符号の説明、1……握り部、2……指掛り。



本案はこの従来の欠点を除去し、コンセントより極めて容易に抜き取りが出来、しかもコンセントに挿し込んだ状態において、他物の引掛りがあつても、コンセント及びプラグ本体を破損せしめることのないものを提供せんことを目的とする。

以下図面に示す実施例に基き具体的に説明する。

本案のプラグ(A)は、第1図及び第2図に示す如く、プラグ本体(1)の後端にプラスチック等の可撓性資材を以て、掌の幅程度の所定長さを有し、且つ軸芯にはコード(4)の挿通孔(3)を貫通せしめた握り部(2)を連設したもので、該握り部(2)の後端には鋼状の指掛り(2)を突設すると共に、先端には側面にプラグ本体(1)の側面外形に合致する嵌挿孔(5)を開設した係止部(1)を形成してプラグ本体(1)を嵌着固定する如くなし、プラグ本体(1)の前面には、係止部(1)の前壁(6)に合致する幅、深さを有す切り込み溝(7)を凹設し係止部(1)の前面がプラグ本体(1)の前面に一致する如くになっている。

次に第3図乃至第6図に示した各実施例は、プ

実用新案 48-52090



(1,500円)

実用新案登録願

特許庁長官殿

昭和 46 年 10 月 15 日

1. 考案の名称 プ ラ ダ

2. 考案者 出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人 ヒガシヤマヤマシナヒ オカカモトヤウ
東 郷 市 東 山 区 山 科 日 ノ 岡 崎 土 町 2 9 番 地
サワ ムラ ミノル
沢 村 実

4. 代 理 人 〒 535 大 阪 市 旭 区 中 宮 4 丁 目 10 番 12 号
(3503) 弁 理 士 丸 山 喜 三 造

外 2 名

5. 添附書類の目録

- | | |
|----------------------|----------------|
| ① 明 細 書 | 1 通 |
| ② 図 面 | 1 通 |
| ③ 委 任 状 | 1 通 |
| ④ 願 書 の 副 本 | 1 通 |
| ⑤ 出願書在請求書 | 1 通 |
| ⑥ | |

訂正
10字削除

48-52090-01

46-095734 48-52090-01

明 細 書

1 考案の名称

プラグ

2 実用新案登録請求の範囲

後部へ所定長の可撓性振り部を連設し、該振り部後端には指掛りを突設したプラグ。

3 考案の詳細な説明

本案は電気プラグの改良に関する。

従来、コンセントを利用し例えば電気アイロン、扇風機、その他の電気器具を使用するプラグを用済後これをコンセントより抜き取らんとする場合に、コンセントに固く差込み固定されていることが多く、反面プラグは強く噛み、抜き取り難いことが多いため、勢いコードを持つて引張り抜くことがしばしばある。この方法でプラグをコンセントより抜き取ると、コード先端の電線固定ネジが自然に緩みコードがプラグ本体よりちぎれ、或いは電線自体が切断し、ショートを起こしてコードの結着部を焼き、事故発生の原因をなす等の欠点があった。

難に

本案はこの従来の欠点を除去し、コンセントより極めて容易に抜き取りが出来、しかもコンセントに押し込んだ状態において、植物の引掛りがあつても、コンセント及びプラグ本体を破損せしめることのないものを提供せんことを目的とする。

以下図面に示す実施例に基き具体的に説明する。

本案のプラグ(1A)は、第1図及び第2図に示す如く、プラグ本体(1)の後端にプラスチック等の可撓性資材を以て、掌の幅程度の所定長さを有し、且つ軸芯にはコード(4)の挿通孔(3)を貫通せしめた握り部(10)を連設したもので、該握り部(10)の後端には鉤状の指掛り(2)を突設すると共に、先端には側面にプラグ本体(1)の側面外形に合致する嵌挿孔(5)を開設した係止部(11)を形成してプラグ本体(1)を嵌着面固定する如くなし、プラグ本体(1)の前面には、係止部(11)の前壁(16)に合致する幅、深さを有す切り込み溝(7)を凹設し係止部(11)の前面がプラグ本体(1)の前面に一致する如くになっている。

次に第3図乃至第6図に示した各実施例は、プ

ラグ本体11)と握り部12)との取付けの他の実施例を示すものであつて、第3図に示す第2実施例は握り部12)先端に、プラグ本体11)の厚みと等しい間隔を有す一対の把持片18)18)を夫々突設して係止部(1)としたもので、前記把持片18)18)間にプラグ本体11)を挿入し、止めビス19)により取付け固定している。

第4図に示す第3実施例は、プラグ本体11)と握り部12)とを合成樹脂の成形加工により一体形成したもので、この場合製造簡易で多量生産に顕著な効果を発揮する。

第5図に示す第4実施例は、握り部12)の先端に筒状の係止部(1)を突設し、該係止部(1)をプラグ本体11)の後端に開口した挿し込み孔(9)へ嵌合させ係止したものである。

第6図に示す第5実施例は、プラグ本体11)の後端の凸部11'11'に螺旋13)を設け、握り部12)の先端にこの螺旋13)へ螺合される連結部14)を設けて、この握り部12)をプラグ本体11)の後部へ連設するものである。

上記各実施例は、全く第1実施例と同様の作用、効果を呈することは勿論である。

尚、指掛り12)には第2図及び第3図に示す如く必要によりその周縁にコード止め溝13)を凹設するも可く、この場合握り部11)にコード14)を巻付けコード終端を溝13)に係止することができ、コードの収納に至便である。

本案は上記の如く構成するからプラグ本体11)をコンセントへ差込むには、プラグ本体11)の後端をコンセントへ向け、プラグの肩部を押圧してなし、又プラグ本体11)をコンセントより引き抜くときは、握り部11)をもつてなすから、掌は握り部11)後端の指掛り12)に引掛つて抜き易く、極めて容易、且つ便利に抜き取ることができ、従来の如くコード14)を引張つてプラグ本体11)を抜くことがないから、コードの結着を損せず永持ちさせることとなる。

又、握り部11)はコンセントから突出しているが、何か他物が引掛つても可撓性を有する為、自由に屈曲してコンセント及びプラグ本体11)を損傷せし

めるおそれがない等の効果を有す。

4 図面の簡単な説明

第1図は第1実施例の中央縦断面図、第2図は第1図の中央横断面図、第3図乃至第8図は他の実施例の一部を切欠せる正面図である。

5 符号の説明

(1) 握り部、(2) 指掛り。

出願人 沢 村 実

代理人 井 堀 士 丸 山 喜 三 造

代理人 井 堀 士 丸 山 信 子

代理人 井 堀 士 丸 山 敏 之

6. 前記以外の発明者、考案者、出願人、代理人

① 発明者又は考案者

な し

② 出 願 人

な し

③ 代 理 人

〒 535 大阪市旭区中宮 4 丁目 10 番 12 号

(6277) 弁 理 士 丸 山 信 子

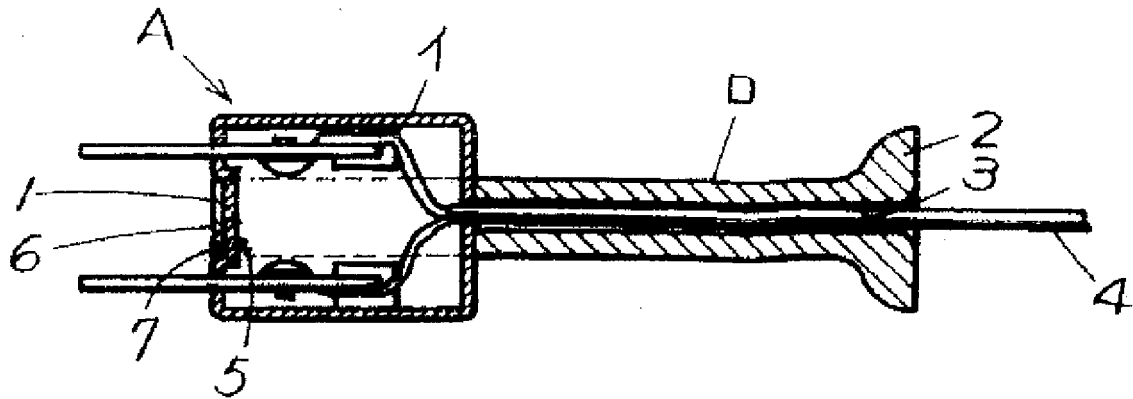
〒 535 大阪市旭区中宮 4 丁目 10 番 12 号

(6672) 弁 理 士 丸 山 敏 之

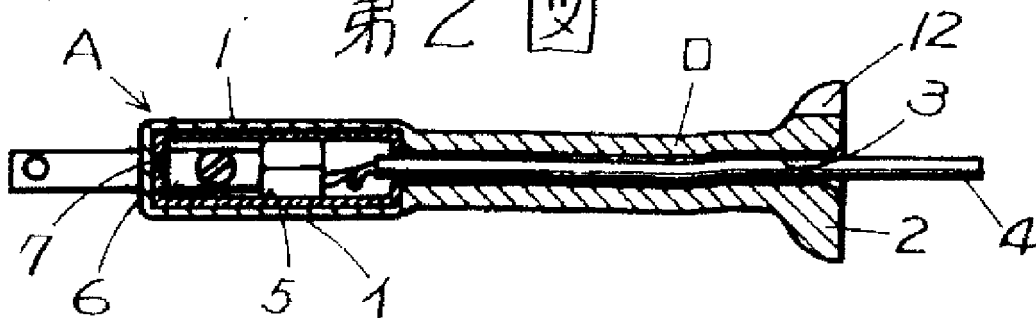
48-52090-09

~~48-52090-09~~

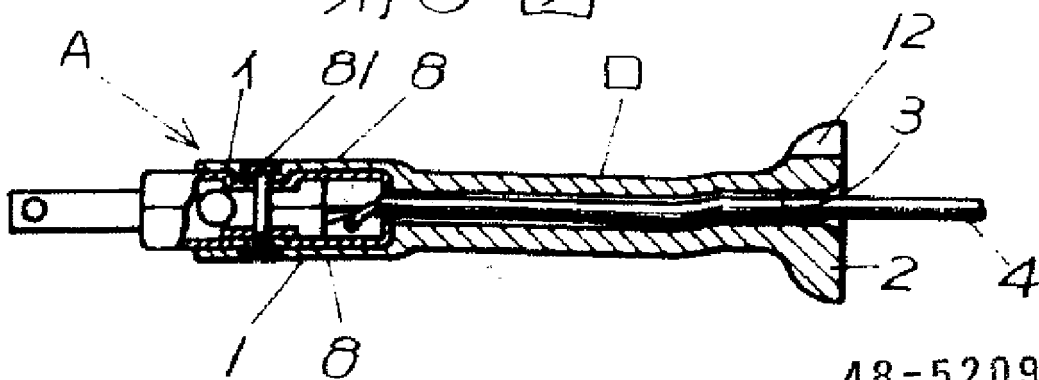
第 1 圖



第 2 圖



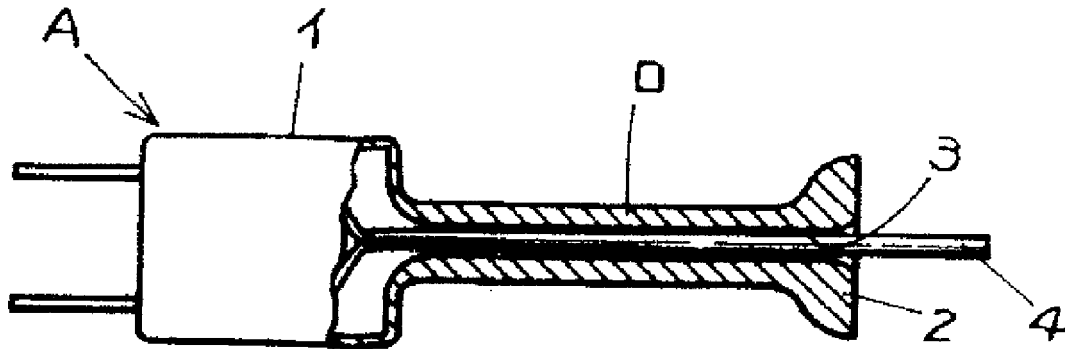
第 3 圖



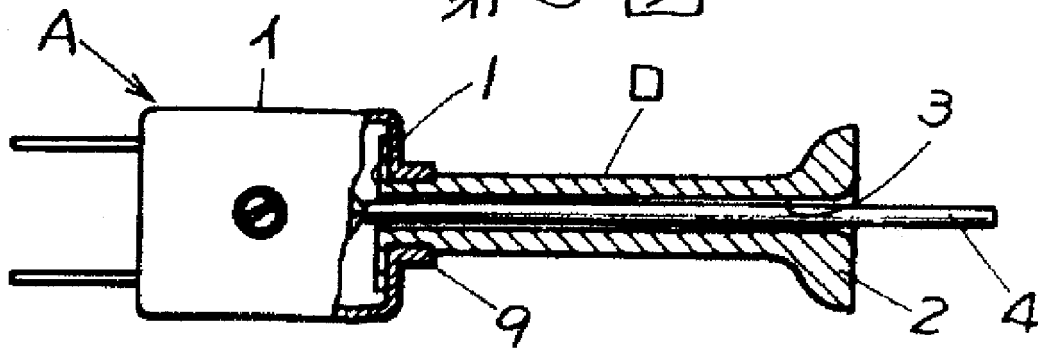
48-52090-07

~~48-52090-07~~

第4図



第5図



第6図

